

## タイワンブナとタケシマブナの花粉

三好教夫<sup>1)</sup>・崔 基龍<sup>2)</sup>・康 祥俊<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>岡山理科大学理学部 〒700 岡山市理大町1-1

<sup>2)</sup>中央大学校理科大学 〒156-756 ソウル市銅雀区黒石洞

<sup>3)</sup>忠北大学校師範大学 〒360-763 清州市

(1991年10月3日受理)

Pollen grains of *Fagus hayatae* and *Fagus multinervis*

Norio MIYOSHI<sup>1)</sup>, Kee Ryong CHOI<sup>2)</sup> and Sang Joon KANG<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>Okayama University of Science 1-1Ridai-cho, Okayama 700, Japan

<sup>2)</sup>Chung-Ang University 221 Heuksuk-Dong, Dongjak-ku, Seoul 156-756, Korea

<sup>3)</sup>Chungbuk National University, Cheongju 360-763, Korea

わが国に現在自生のみられるブナ属は、ブナとイヌブナの2種だけである。その花粉の形態は、Jimbo (1933) に始まり Praglowski (1982), Miyoshi & Uchiyama (1987) など多数の研究がある。ブナ属の遺体については、Tanai (1974) によれば、アンティポフブナ、インターメディアブナ、ムカシブナ、アケボノブナ、ヒメブナの5種が漸新世から更新世にかけて報告されている。

現在ブナ・イヌブナのいずれも自生の認められない隠岐・島後の都万湿原で花粉分析したところ、ブナ属の化石花粉が検出され、これがイヌブナとタケシマブナのどちらであるかの検討が必要になってきている。また、山口県北部にある徳佐盆地の85m湖成堆積物による約70万年間の植生史を調べていると、ブナ型でもイヌブナ型でもないブナ属の化石花粉が出てくる。このような花粉分析における化石花粉の同定に役立つため、日本列島近くに分布するタイワンブナとタケシマブナの花粉の形態を調べたので報告する。

方法は、両種の花粉をアセトリシス処理してから、光学顕微鏡用はグリセリンゼリーに包埋し、走査電子顕微鏡用はカルノア液に固定してから乾燥し蒸着して観察した。大きさは30個体測定し、その極軸(P)×赤道軸(E)を最小(平均)最大で示した。

タイワンブナ *Fagus hayatae* Palibin ex Hayata (Fig. 1, A-D)

偏平球。極観は亜三角形のものが多く、赤道観はほぼ円形。3溝内孔型。溝はひじょうに短く13-17 $\mu$ m。極域での溝間は約25 $\mu$ m、孔は円形～だ円形。外層は

畝～テマリのような線状紋がみられる。畝～線は互いに交叉したり重なりあって、複雑にからみあっている。この模様は幅は1.5 $\mu$ mぐらいでほぼ同じ太さであるが、長さは5 $\mu$ mぐらいから10 $\mu$ m以上の長いものである。大きさ: 32.5 (35.8) 40.0×32.5 (38.3) 45.0 $\mu$ m。P/E=0.9。

台湾台北市山椒。1933, I V, 13. (鈴木時夫)

タケシマブナ *Fagus multinervis* Nakai (Fig. 1, E-H)

偏平球。極観は亜三角形～亜円形、赤道観は円形。3溝内孔型。溝は非常に長く25-30 $\mu$ m、極域での溝間は短く5-8 $\mu$ m。外層は線状紋というよりも棒状突起を押しつぶしたような模様である。突起の幅は1.5 $\mu$ mぐらいでほぼ同じ太さであるが、長さは全般に短くて5 $\mu$ mをこえることは少ない。大きさ: 27.5 (33.9) 42.5×32.5 (37.4) 50.0 $\mu$ m。P/E=0.9。

韓国慶尚北道、うつ陵島聖人峯。1988, V, 21. (朴 勝龍)

これら両種の花粉をわが国のブナ・イヌブナと比較してみると、タイワンブナはブナに似るけれども、溝の長さがブナよりもより短くて、外層の畝～線状紋はブナやイヌブナよりも顕著である。タケシマブナはイヌブナに似ているけれども、溝の長さがイヌブナよりももっと長くて、外層の線状紋～棒状突起はブナやイヌブナよりも短い。

稿を終るにあたり、貴重な試料を提供してくださった国立科学博物館の八田洋章博士・中池敏之博士と朴勝龍氏に深謝する。

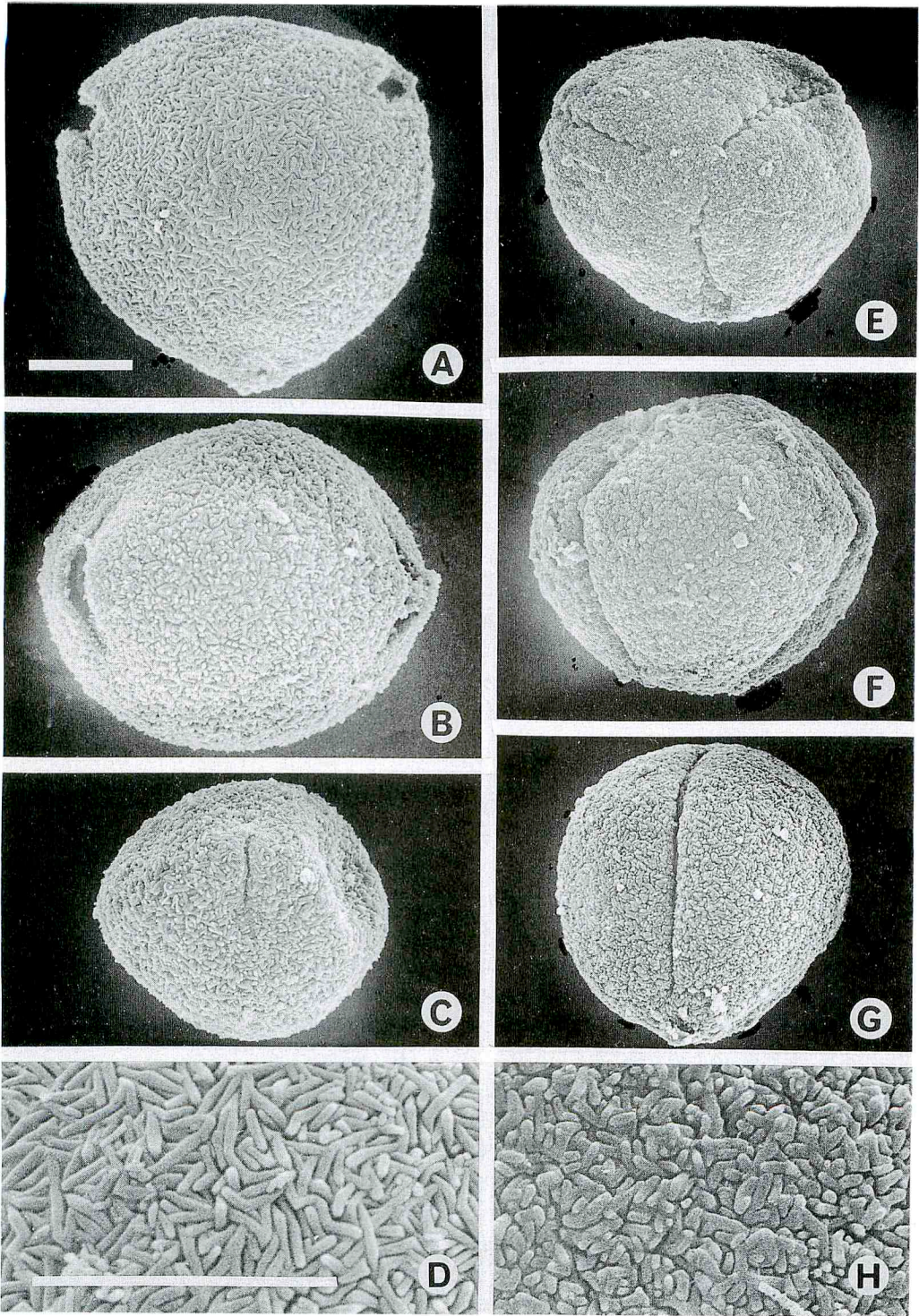


Fig. 1. A-D: *Fagus hayatae*. E-H: *Fagus multinervis* (A-C, E-G:  $\times 1,500$ ; D, H:  $\times 4,500$ )